

授業方法について独自に工夫していること 【教育科学系】

幼児教育の具体的なイメージを持てるようにするために、DVDを活用した。

1年生が最初に受ける専門の授業なので、基本的な知識の習得を促した。その方法としては、授業スライド資料と資料を読めば空欄を埋めることのできる確認小テストプリントを同時に配布し、授業ひとまとまりが終わるごとに計6回確認小テストを行い、受講者間で答え合わせを実施した。障害者施設に勤務するゲストティーチャーの講義の際は、グループワーク、質問コーナーなどを設け、主体的・対話的な深い学びにつなげた。知的障害者教育に関わる映像を見せた上で、長時間のグループワーク＋全体発表を行う試みも行っている。

講義ではなるべく多くの印刷物(資料)を用いてどこに必要となる資料があるかを読み取らせている。実習では、実習による測定データを収集するだけでなく、毎回レポートを課して、そのデータの意味や必要となる基準を意識させている。

外部と関わりながら実施している。実社会との関わりは重要なので、その機会をなるべく用意しようと考えている。

- ・いずれの授業科目においても、教員の一方的な講義で終始するのではなく、学生が主体となって授業に参加し、授業内容の理解を深めることができるようにしている。
- ・実習科目については、担当班への事前指導及び資料の作成・授業の運営等を指導し、実践的な指導力を高めるようにしている。

本授業では、文系の学生には慣れない生理学や光学的内容が含まれている。このため、2回に1回は、小テストを行い、その問題と類似したものを定期試験に60%含める旨、学生たちに周知している。また、視力の算出方法等、計算が必要な場合には、電卓の使用を許可するなど、本科目の内容に対する各学生の抵抗感をできるだけ、低くするよう工夫している。

- ・いずれの科目についても最新の医療情報を収集し、常に新しい情報を取り入れた授業内容になるように工夫しました。
- ・救急処置の授業では、学校現場の養護教諭として教職員に心肺蘇生法及びAEDの使用について講習を行う想定で、グループ単位で研修プログラムを作成してロールプレイングを発表し、クラス全体で学びの共有をしました。
- ・臨床実習Ⅱでは、保健医療現場での学びを常に学校現場に置き換え、養護教諭としてどのように活かすかを考察するように指導しました。

前年度担当した「MS Intermediate English」での経験から、本コースの学生の英語に関する基礎学力の欠如を痛感したので、本授業では、基礎学力の底上げを図るべく、単語力の強化と英文法についての知識(特に構文読解力)の強化に努めた。

できるだけ身近な具体例を挙げ、興味を持てるように、また、できるだけ系統だった知識を提供できるよう心がけた。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問をして理解度を確認し、必要に応じて例題を出して計算をさせ、理解を深めるよう努めた。

できるだけ身近な具体例を挙げ、興味を持てるように心がけた。また、病態生理についても適宜説明した。また、なるべく平易な言葉でゆっくり話すようにした。板書は要点のみを簡潔に書くように心がけた。一方通行の授業にならないように、適宜、質問等を行って理解を深められるよう工夫した。

個別事例を紹介しながら、制度や援助方法の理解を促す様に工夫しました。

聴覚障害教育(特に聾学校)における自立活動の実際に即した授業ないようするために、言語指導・発音指導・聴覚活用・障害認識を柱に授業を構成し、二人で分担した。
また、実際の授業につなげるために、学生それぞれに一人の聴覚障害児の一生を記述させ、それに基づき小学部における「個別の指導計画」を作成させ、そこから「自立活動指導案」をグループで協議し、最後に模擬授業を行うよう流れを作った。

木材加工について、基本的なことから順に学ぶことができ、学んでいく中で難易度の難しいものも、比較的容易に学ぶことができる学習の流れを工夫しています。また何よりも楽しく制作できる教材にも工夫しています。

・この科目は、新規に設けられた専攻科目であり、広範な内容を取扱っております。しかし、他の専攻科目とのつながりが少なく、適切な教科書も乏しい状況であります。
・そのため、スライドを使用し、図表や写真で講義するようにしました。スライドの中で重要なものは印刷体で配布しました。授業のポイントがわかるように、授業中に課題を提示し、レポートを記入するようにしました。レポートはチェックして、次回授業時に返却してフィードバックを図りました。

週1回しか受講学生と顔を合わすことがないため、毎時の導入には、前回の復習や提出されたコメントシートの振り返りを行うことで、前回と本時が可能な限りつながるようにしている。

授業の導入として、高齢者の疑似体験を取り入れました。
高齢者の保健・医療・福祉に関する制度・サービスについて少しでも身近な問題として考えられるよう映像資料を取り入れました。

認知症高齢者とその家族の生活課題をより身近に感じられるよう映像資料を用いました。
介護保険制度の学習は、市民向けに自治体が発行しているパンフレットを活用しました。

・毎回の授業でグループワークを多く取り入れた。話し合いや共同作業による作品作りを通して、保育内容の「表現」について楽しみながら理解できるよう工夫した。
・自由な表現を促し、認め、褒めることを意識した。幼児教育における重要な視点や保育者の姿勢について、教員自ら実践し、学生の理解を促した。
・初等教育学生を対象とした授業であったため、幼児教育と学校教育の比較や小一プロブレムの問題などにも触れることで小学校教員としても役に立つ内容となるよう工夫した。

・将来保育者となったときに必要な音楽的知識と弾き歌いの技術を身につけられるよう、全体での講義と個々の指導を合わせて各回の授業で行った。
・理論の説明では、聴覚をはじめ五感と結びつけて感覚的に理解できるよう工夫した。
・実技指導では、個々のレベルに合わせた課題を設定し、励ますことによって学習意欲を高められるよう工夫した。
・学生が音楽や歌を「楽しい」と感じられるよう、幼児教育における「遊び」と関連づけた授業内容を心がけた。

・保育現場で行われる劇遊びの指導を想定し、劇創作のプロセスについて体験を通して理解できるよう工夫した。
・学生の創意工夫によって、台本作りから演出、音楽、衣装、舞台道具にいたるまで行うことで、学生同士で話し合い、協力して作品作りができるような環境作りを心がけた。

授業コード3403591

保育実習の事前事後指導の授業であるため、できるだけ実践的な内容を実施する。ピアレビューによって相互評価を促す。

授業コード4403481

子どもの保健の中でも特に疾病に関する授業である。知識を定着させることに主眼をおくため、学生自身が調べて発表する機会を多くしている。

【2891011 心理学概論】毎回コメントペーパーを配布し、学生の疑問や質問について、次回の授業で回答している。
【2891021 心理学実験 I】学生が主体的に取り組むことができるよう、グループで実際に心理学実験を体験させ、レポートの書き方やデータ分析の仕方について教育を行った。
【3892311 心理実習 I】学外での実習に向けて、学生が自身で調べる活動を中心にした。また少人数での指導を行い、学生への定着を図った。

授業以外の時間にも学生からの質問や連絡を受けられるように、メールアドレスを公開した。(社会調査演習、心理学概論)
授業の内容を振り返って整理するために、毎回の授業の終わりにリアクションペーパーを学生に配布し、授業の感想や授業における疑問点を記入してもらった。(社会調査演習、心理学概論)
資料配布において、印刷物だけでなくPDFファイルも利用した。それにより、印刷物では見にくくなってしまいうような資料を見やすくすることができ、また多くの資料を配布することができた。(社会調査演習)
授業で紹介した内容について、教室内で実際に体験することが可能な場合はできる限り学生に体験させるようにした。(心理学概論)

・幼児教育史の内容を単に過去の知識としてのみ学ぶのではなく、現在の教育内容・幼稚園教育要領等の改訂の内容と比較、整理して学ぶことができるようにする。
・実際の子どもの姿・保育の様子を通して、上記の視点について具体的に捉え考えられるよう努めた。

パワーポイントを利用した授業が多くある中、将来保育者として「クラスだより」や「お帳面」を手書きで書くスキルがもとめられることを想定して、あえてホワイトボードでの板書を行っている。
手書きの温かみ、書く習慣、わかりやすくまとめる要領を習得、実感できること目的としている。

毎回、学生が能動的に授業参加する内容で構成する

講義、小課題、グループワークを織り交ぜて、学生が退屈しないように工夫した。

具体的な例をあげて、学生の興味を引くようにした。

MS Intermediate English 1については語学が中心なのでコースブックを使っているが、MS World Education 1についてはビデオ、新聞などを用いて世界各国の教育についての情報や現状を理解できるような授業を心がけている。語学は重要だが最も重要なのは内容だと思う。

単なる講義ではなく、体験(疑似体験)を取り入れることで実感できるようにしている。
安城市のサルビア祭りで、障害児たちと楽しく遊びのコーナーを持てるようにしている。(授業と自治体の催しとの協同)

学生が主体的に学習できるようグループワークを中心に行い、振り返りから新しい気づきが得られるよう工夫している。

法令・制度など学生にとって難しく感じる内容を多く扱うため、映像資料などを活用して、社会の問題を身近に考えることができるように工夫している。また、コメントシートを毎時間記入することとしており、次の授業で質問や意見を紹介することで、多人数の講義において学生の参加を促し、相互的な授業になるようにしている。

幼児の思考や行動を具体的にイメージとして理解しやすくするために、幼児の活動する動画を使って説明したり、幼児のエピソードで語られる資料を基に説明するよう心掛けた。

- ・休み時間に、ホワイトボードに、本時の目標、90分の授業展開を書いて、見通しが持てるようにする。
- ・講義に関連した話題や時事ネタを「今日のコラム」というかたちで配布し、受講者が感想を次回までに書いてきて提出し、それにコメントを付けて返したり、必要に応じて関連したスライドを作成したりするようにしている。
- ・実際の教育現場での実践映像(自身の教員時代の映像:保護者の許可を得ている)を使って特別支援学校での指導のイメージを持てるようにしている。
- ・学内外の人材を活用している(例えば、学習指導要領に関連する話題で太田部長にお話いただいた)。
- ・授業後に必ず「いいねカード」(なるほど・分かった／もっと知りたい／もっとこうしたらいいね:授業の改善点)を記入するようにしてもらい、次回の授業の冒頭で「もっと知りたい」とい内容を深めたり、受講者全員で共有したりするようにしている。必要に応じて、コメントを記入するようにもしている。

学生は、臨床心理学についての授業はたくさん受講してきているため、地域支援・保護者支援を一つの柱とした。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

授業・幼児教育への理解度について以下の割合で評価した。
授業内提出物30%、授業への参加度30%、レポートの提出40%

基本的には、最終確認テストの結果を踏まえて評価した。最終確認テストは、それまでの確認小テストの設問が9割以上である。確認小テストにこつこつ取り組んでいる学生は大概最終確認テストでも9割以上のスコアを取るため、S評価が多くなっている。必修科目であるため、3分の2の出席をクリアした上で最終確認テストが6割取れなかった学生に関しては追試を行うことを事前に伝えておいたが、今回は該当学生がいなかった。該当学生がいる年度は、追試をクリアした場合は、その点数にかかわらず60点で通している。

講義では、講義内容を反映させたテストに、出席状況とアクティブラーニングでの学習の報告レポートを加味して評価した。実習では、実習態度、毎回のレポートの内容と提出状況、最終レポートの内容などで評価した。

シラバス通りです。

・シラバスに記載したように、レポート内容、授業参加度、出席状況を、授業目標への到達状況を踏まえて総合的に評価した。また、筆記試験を課した科目では、筆記試験を合わせて総合的に評価した。

特別支援学校(視覚障害)の免許を取得可能な全国の大学のカリキュラムを概観し、内容や達成基準は、全国の平均レベルになるよう調整している。評価基準は、教員養成という特性を踏まえると、もっと厳しくてもよい状況である。

・いずれの科目も実習科目であり、授業への出席状況及び実習時の参加態度および課題レポート等を総合的に評価しました。
・救急処置の技術の修得に関しては、実技テストで評価をしました。
・臨床実習Ⅱに関しては、実習記録、課題レポート等の記述内容から評価をしました。

毎回実施する単語テストの点数の集積と、期末テストの成績に出席状況を加味して成績を出した。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点は、 $\text{本試験の得点} + (100 - \text{本試験の得点}) \div 4$ を、追試験受験者に対しては、 $(\text{追試験の得点} - 60) \div 4$ を60点に加えた点数を成績とし、本試合格者と追試者の成績が逆転しないよう配慮した。

・出席率
・授業で紹介した事例を学生がどのように理解しているのかをレポートさせ、成績評価に反映させました。

評価については、
授業への参加状況(発言や事前準備、授業後の質問等)
「個別の指導計画」「指導案」等の完成度
模擬授業の進め方
等を総合的に評価した。

制作過程において、どの程度独自の視点で問題を見出し、さらに解決できたかという点と、作品づくりにおいてどの程度丁寧に正確に制作できたかという点に関するレポートを書いて頂いたため、授業中の制作の様子に加えて作品そのものとレポートの両方も見せて頂いて成績評価を出させて頂きました。

- ・学生から授業毎にレポートを提出してもらい、出席点としました。
- ・授業科目終了後に試験を行いました。
- ・出席点と試験は半々に配点しました。

期末(第16回目)のテスト 40%, 毎回のコメントシート 30%, グループワーク課題や発表に関する評価 30%, 合計100%
それぞれの評価の観点は事前に示している。

筆記試験の結果にグループ・個人で取り組んだ課題の点数を加えました。

授業参加態度の評価に、事例事前学習(調べ学習)や個別支援計画の作成などの課題の評価を加えました。

- ・グループ活動による授業のまとめとして作品発表を行い、それを踏まえたレポートおよび授業ノートの提出を課した。
- ・課題レポートからは授業の理解度を評価し、授業ノートからは参加意欲や発展的学びの視点から評価した。

・弾き歌いの実技試験および音楽理論の筆記試験により評価した。採用試験および保育現場において必要とされるレベルを基準とした。

- ・創作の過程および出来上がった作品の発表により評価した。

授業コード3403591
実践した模擬保育の計画と実践, 振り返りの内容から評価
授業コード4403481
調査した内容をまとめたレジメとプレゼンから評価

【2891011 心理学概論】記述試験を実施し、授業内容への理解度及び、理解したことを説明する力について、それぞれ採点基準を設けて、採点基準に応じて評価を行った。
【2891021 心理学実験 I】授業内で複数回提出されたレポートを、毎回、採点基準に従って採点し、最終的にそれらを平均した点で評価をした。
【3892311 心理実習 I】調べ学習への参加態度、及び学外での実習態度、記録に基づき採点を行う。

授業の理解度を試験によって、授業への参加度を出席状況によって評価し、それらを総合して成績評価を行った。

- ・幼児期の教育の特性である「遊び」を通した総合的な指導について、日本の幼児教育史の流れの中で、どのようにあつかわれてきたのか、授業や教科書等を通して自分なりに整理することができたか。
- ・具体的な幼児の遊びの姿を通して、その意味や学びを捉えることができたか。
- ・授業への主体的な取組、グループ協議・発表への積極的な態度等。

小テスト 15点×2回 計30点
保育実技発表 20点
製作物 10点
レポート 15点×2回 計30点
授業態度(発言、グループワーク等) 10点
最低点 60点 最高点100点 平均92.5点

毎授業における授業参加の評価を小課題などで評価するとともに、期末のテストで知識定着を問う

毎回の小課題(2点×15回)+レポート課題2回(35点×2回)=100点

子どもの権利が侵害されていることに対する気づきがあるか。様々な背景をもつ子どもたちに配慮ができているか。子どもの権利を保障するための工夫がみられるか。

両コースともに授業への参加とテストの成績を総合して、能力の向上を判断している。

①出欠席は2/3以上の出席を前提とし、得点化している。
②レポートを提出させている。
(①と②の総合評価)

毎回の授業で提出する振り返りの用紙、最終授業までをまとめて提出する課題より授業の理解度、自分の言葉でまとめる力を評価した。

評価の基準は、期末レポート(60%)、毎回のコメントシート(20%)、授業への参加度合い(20%)による。期末レポートでは、複数のテーマから1つを選択して3000~5000字でまとめる形式で、評価基準は、①授業内容を踏まえていること、②適切な先行研究を参照していること、③テーマに関する理解が十分であること、④論点を踏まえて自分なりの考察が示されていること、⑤誤字脱字・文章校正などレポートとしての完成度、によって5段階で点数化して評価している。また、コメントシートでは、授業への理解度や主体的に授業に取り組んでいるかを評価している。なお、評価基準は初回の授業やレポート課題を提示する際に、あらかじめ明示している。

課題に即したものであることは当然のことであるが、自分なりの考えに基づく(もちろん各種論文、文献を参照したものでもよいが、その課題について十分に理解されていると考えられることが前提)主張が、筋道立てて、子どもの姿がイメージできるような内容であること。良い悪いの判断が一般論(日本的な躰、儒教的、論語などの考えによる)ではなく何らかのエビデンスの基づいてなされていること。等を評価の基準として採点した。各設問につき、(やや理解できている:6、理解できている:8、十分に理解できている:9、十分に理解した上で自分の考えを主張できている:10)とし、総合的に判断した。

シラバスに則って、定期試験の成績(50%)、レポート・提出物の内容(30%)、授業参加態度(20%)等を踏まえて総合的に評価するために計算式を作成し、評価している。レポート等も、評価基準を決め、受講生が説明を求めてきた際にも説明責任を果たせるようにしている。

後半に読書紹介、事例検証を行わせたため、プレゼンテーションの評価、及び毎回のコメントシート評価を参考とした。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

受講者が多いがコメント用紙を活用して、コミュニケーションをとるようにして、学びが深まるようにしたい。

問1から問12まですべて、「青色(強くそう思う)」および「青色+赤色(強くそう思う+ややそう思う)」が専攻科目全体より高く、高評価を得ている。そのなかでは、問8「教員の話し方は聞き取りやすいか」は最も専攻平均との差が小さいので、活舌の悪さは自覚しているものの、ゆっくりと話すなど改善に努めていきたい。問10「教材・教具のわかりやすさ」についても差が小さいので、視覚的効果を重視するなど改善に努めていきたい。

授業の内容については一定の評価が得られていると考えるが、毎回、板書や資料などとわかりにくさの指摘がある。この点はさらに工夫が必要かもしれない。しかし、基本的に「講義」を聞いていないと板書が分かりにくく、資料も分からなくなるので、どの程度講義を聞いている者がわかりにくいと言っているのかの分析がない(このアンケートでは分からない)ので、答えようがない。

ホワイトボードの文字がうすいのは教室にあるペンの問題なので、教務課と連携をしていきたい。

・講義が中心となる授業科目においては、学生自ら問題点を深く考え、思考するという自ら学ぶ姿勢が見られにくいことから、学生の学習意欲を高めるようなグループワークを取り入れるなどの工夫をしたい。

学生たちが思いのほか、自習していないということがわかった。事前、事後の課題をもっと導入することで、主体的に調べるといった経験もさせたいと思った。

・学内の実習科目である救急処置に関しては、2020年に国際蘇生連絡委員会による「心肺蘇生に関わる科学的根拠と治療勧告コンセンサス」の改訂とそれに基づく日本蘇生協議会(JRC)による「JRC蘇生ガイドライン2020」が作成される予定であり、最新の蘇生ガイドラインに準拠した授業になるように、常に新しい情報を収集して学生に教授するように留意したいと思います。また、「将来、養護教諭として適切な処置および保健指導ができる」ことを念頭に、技術の修得とともに児童生徒及び教職員に対して保健指導ができるレベルを今後も授業の到達目標として設定したいと考えます。

・学外の実習科目である臨床実習Ⅱに関しては、外部の保健医療施設における臨地実習であり、実習施設の実習担当者との綿密な事前打ち合わせと事後報告をこれまで通り丁寧に実施したいと考えます。

難易度に関して、「ちょうどいい」と「難しい」が丁度半々で、やや内容が難しすぎたかも知れないと反省している。「ちょうどいい」が3分の2か、4分の3になるくらいの教材を選択することを心掛けたい。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う』が11.9%『ややそう思う』が54.8%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う』が0.0%『ややそう思う』が26.2%で、多くの学生はあまり目標が達成できたとは思っていないようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が26.2%、(授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が76.1%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった、と解釈できる。今後は、授業内容を厳選し、深い理解が得られるよう丁寧に講義するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)の質問に対して『強くそう思う』が14.3%、20.0%『ややそう思う』が85.7%、75.0%であるのに対し、(学習目標が達成できた)の質問に対しては、『強くそう思う』が4.8%、0%『ややそう思う』が52.45%、75%で、目標が十分達成できたとは思っていない学生もかなりいるようである。また、(授業で提示された課題を、自ら検索し考えた)の質問に対しては、『強くそう思う・ややそう思う』が61.9%、65% (授業の難易度)の質問に対して『難しい・難しすぎる』が47.7%、40%であり、新しい知識は身についたが内容が難しく目標を十分達成するには至らなかった学生も少なからずいる、と解釈できる。今後は、授業内容の説明を工夫するとともに、適宜課題を課し、自己学習を促すように工夫したい。

学習課題をもう少し増やすことでしょうか。

できるだけ聴覚障害教育の実態に即して授業を構成することに努めたが、時間数が十分ではないこと、学生が聴覚障害児の障害状況や学習実態に十分触れていないことなどもあり、予定のレベルまで達成できない面もあった。
今後は学生があらかじめ授業時間以外のボランティアなどを活用して、児童の実態に触れる体験を積むよう、情報提供及びボランティア参加の奨励等に努めていきたい。

この授業に関して授業時間外での学習時間が少ないので、その点を改善していくことができればと思います。

- ・アンケートから、学生が自分で知識を深める、思考を展開する、などが少ないようであります。
- ・授業の難易度も難しく、授業内容の量も多いように捉えられています。これは授業前から教員も認識していたところでもあります。一方、自己学習の時間が少ないような結果が出ています。
- ・以上から、もう少し自己学習をすすめるように授業の形を修正していきたいと思います。

問12の設問について、学習意欲が継続できるような工夫を次年度に向けて検討したい。

テキストを指定しなかったので、予習や復習が難しかったと思われます。もし次年度も担当するのであれば、最もよく活用したテキスト1冊を指定し、自己学習ができるようにしたいと思います。

高齢者福祉に少しでも興味関心をもってもらえるよう地域包括ケアなど、高齢者だけではない幅広い対象者への支援に関する事例も取り扱いたいと思いました。

- ・ 時間配分について課題が残った。授業内でグループワークによる発表を多く行ったが、時間内に発表が終わらず時間を延長することがあったため改善したい。
- ・ 授業で提示された課題について8割以上の学生が「深く考え」「学生同士で内容を深め」「自らの表現で伝え」「多様な考え方」によって「学習目標を達成した」と答えており、講義と演習による体験を通じた学びについて一定の成果を得られたと考える。
- ・ 一方で、授業内容について半数以上の学生が「多い」と答えていたが、内容の取舍選択および時間配分の見直しなどで改善したい。

- ・ 学生とのコミュニケーションを図り、学生が意欲的に課題に取り組むことができたことは良かったと考える。
- ・ 授業内容は易しいものではないが、難しい理論を比較的分かりやすく説明し理解を促すことができたと考え。今後はより分かりやすい説明を目指したい。

- ・ 学生が自ら考え、試行錯誤する学習は学びが大きい反面、個々の負担も大きくなる。授業のまとめとして幼児を対象とした劇公演を行うため、学生としても妥協できないことも一因と考える。練習時間の確保や効率化について改善を図りたい。

授業コード3403591 授業コード4403481
項目により、「やや思う」が「強く思う」を上回るものもある。改善の工夫したい。

【2891011 心理学概論】この授業に関する予習や復習を行っている学生があまり見られなかったため、自主学習を促す工夫をしたい。
【2891021 心理学実験Ⅰ】学生により取り組みへの意欲の差が見られたため、意欲のない学生についての対応を意識する必要がある。
【3892311 心理実習Ⅰ】グループでの活動となると、グループ内で学習意欲の差があったため、意欲の低い学生への対応について検討する必要がある。

授業ではたくさんの内容を扱わなければならなかったので、学生の理解が十分でなくても授業を進めざるを得なかったところが多々あった。授業進度が速い中、内容をできるだけ理解してもらうためには、提示する内容をもっと簡略化して、なるべく直観的に理解できるようにする工夫がさらに必要だと思われる。(社会調査演習)

・非常勤であるがため、学生とのコミュニケーションを通して信頼関係づくりに努める。
今回、問11における①の回答比率の低さを改善していきたい。
・学習目標を学生自身が自己の課題として意識し、見直しをもって楽手に取り組むことができるように、当初の授業で明確にする。
今回、問2・3・7における①の回答比率の低さを改善していきたい。
・講義を通して得た知識を活用し、議論し、自分なりの考えや気付きを広く深める。
今回、問4・5・6における①の回答比率の高さを維持していきたい。

問2、問3で「どちらともいえない」「あまりそうは思わない」という回答がみられた。
しかし問15では、家庭学習として平均1時間未満、多いと3時間以上という回答もみられ、家庭学習の時間、課題がなかったわけではないと考えられる。しかし、作品の製作や指導計画の作成に費やした時間ともいえるので、今後は予習として調べ学習を積極的に取り入れて、授業への理解度、自己課題の気づきにつなげられるように改善したい。

予習や復習の時間を増やすため課題を工夫したい。

各学生の自主学習時間が短かったため、論文や本の紹介を加えてもよかったかもしれない。

学生とのコミュニケーションが欠けていたと思うので、改善したい。学生間で議論する時間を少ししかとれなかったため、今後は活用していきたい。

質問13と質問15について難しいという答えが多かったが、これについては学生の向上に必要なだと肯定的にとらえ、特にMS World Education 1については今後授業以外に課題などを出したいと思っている。

学生が自ら検索したり、思考できるように、さらに工夫する必要がある。

使用する事例などを工夫し、より学生が興味をもてるよう工夫したい。

問3「授業を受けた上で、自ら関連項目について情報を集め検討し、自分なりの思考を展開した。さらに、その考えに基づき行動した。」について、「どちらともいえない」との回答が多かったことから、必ずしも教育関係職を目指さない学生に対しても、意欲的に学習することができるようにテーマの設定を工夫するとともに、教育と社会の関係について主体的に考察するきっかけとなるように、グループワークなどの活動を取り入れていきたい。

授業目標、学生に身に付けてほしい考える力、そこに至る道筋について授業開始前に明示しておく、理解しやすいし、自分なりに発展的学習に結び付いていきやすいのではと考える。

・授業全体としては、どの項目も、概ね7割～8割以上の達成度(強くそう思う・ややそう思うの該当率)ではあったが、「学生どうして授業内容を深めあった」、「授業で修得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる」の項目が、他の項目に比して、低い値であった。学校現場で自身が行った実践VTRなどを見せながら、興味・関心をひく授業を心がけてはいたが、アクティブ・ラーニング面で更なる改善が必要であると考えられる。後期からは、知識の伝達(講義形式)と学生同士の対話(演習形式)を90分の授業中に組み合わせた展開で、授業を展開するよう取り組んでいる。

コミュニケーションは、これまでの授業と比べて比較的取れていると評価されていた。一方で、さらに深めたいと考えてもらうのが課題である。